

〔グリーン・イノベーション・農林水産業分野〕  
総合特別区域評価・調査検討会における評価結果

令和6年度

森里海連環高津川流域ふるさと構想特区

〔指定：平成23年12月、認定：平成29年3月〕

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 ※『-』とされている箇所については平均値計算から除外

5.0

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	路網整備と計画的施業の推進	118%	5
2	地域資源を活用した農村定住・交流促進	133%	5
3	高津川流域の水質浄化及び川と海の水産資源の維持・増殖	106%	5

評価指標毎の進捗の評価の平均値

$(5 \times 3 + 4 \times 0 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 3 = 5$

5.0

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。

(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa: 5・20%、b: 4・10%、c: 3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

※2) 数値目標○は複数の数値目標があり、※1のとおり各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均しているため、進捗度と評点が一致しない。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

5.0

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 ※『-』とされている箇所については平均値計算から除外

2.8

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

-

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

2.5

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.0

### Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.7

・圏域の小学生による海岸漂着物調査の実施、津和野高校の鮎釣り体験の実施など子供たちへの体験学習は、短期的な効果は出ないとしても長期的には必ず意味のある成果をもたらすと考える。今後も継続していくことを期待する。また、こうした体験活動を実施する際、1つの学年だけでなく複数の学年で実施し、上の学年が下の学年を指導する関係をつくることで、活動の継承と記憶が強固なものとなるように思う。林業従事者の高齢化のブレークスルーになるようなイノベーション(以前は「壊れない路網」の提案があった)を検討する段階に来ているのではないだろうか。不在山林所有者が増加していると思うが、そうした状況を克服するための規制緩和あるいは規制強化の提案がされることを期待したい。本特区は鳥獣害対策に関する規制緩和提案をしてきた点が評価されるが、この問題について新たな提案がされることも期待している。

・観光や林業では、目標を達成し、順調に成果を挙げている。  
新規就農者については、累計では目標を達成しているが、単年度では20名に達していないので、年ごとの増減はあるにせよ、今後の動向には注意したい。狩猟免許取得も重要と思われる。  
川活動参加人数の減少は、団体の解散によるものであることから、団体の運営の持続性についても注視したい。

・鳥獣被害対策実施隊の規制緩和が具体的にどう効いたのか検証できない。その緩和がかえって地元のコミュニケーションの弊害になっていないか。KPIとその到達度は悪くないが、森、里、川の活用で取り組んでいる他の地域と比べ地域独自の取組が顕著でないの気もするので更なる工夫を期待。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.7

## 総合評価

Ⅰ、Ⅱ及びⅢを1:1:2の比率で計算  $(5+2.8+3.7 \times 2) \div 4 = 3.8$

3.8

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。